# 管理職だより　第1号

## 『学校運営協議会（コミュニティ・スクール』より

## 『あいさつとお手伝い』

今年もいよいよ押し詰まって参りましたが、皆様、ご健勝のことと存じます。さて、去る 10 月 28 日に、鶴見養護学校にて、令和３年度第２回学校運営協議会（以下「コミ・スク」と略す）を開催いたしました。
（第１回は新型コロナウイルス感染症拡大のため「書面開催」という形で、委員の皆様にお願いせざるを得ませんでしたが、第２回は、委員の皆様にご来校いただき直接対面した形で実施できました。もちろん、マスク・消毒・距離・換気等の対策を実施した上でのことです。）

コミ・スクは、本校で展開している教育活動全般について広くご意見をいただく場ですが、時間に限りもあることから、今回はテーマを２つに絞り説明させていただき、皆様からご質問・ご意見をいただきました。
いただいたご意見の中に、「学校の教育活動を地域の方々に発信する方法をさらに工夫することも重要である。現在、Twitter やホームページ等での発信があり、たいへん有効だと思うが、地域の方々向けに「つるにょんだより（学校だより）」を作成し、町内ごとに回覧板等でお知らせすることも重要だと思う。ぜひ、検討してほしい。」といった主旨のものもありました。
上記のご意見をいただき、このたび、本校「後援会」副会長４名の各自治会長様へお願いし、回覧板に「つるにょんだより」を挟んでいただける運びとなりました。近隣にお住まいの方々は、ぜひご覧いただけますよう、お願い申し上げます。

次に、私が子どもたちに伝えていることについて記します。１つは「あいさつをしよう」もう一つは「お手伝いをしよう」です。学校でもご家庭でもよく聞く話だと思います。それだけ身近で、当たり前のことですが、その大切さを伝えたいと思っています。入学式でも、始業式でも、終業式でも、子どもたちに話していることです。このことは折に触れ、保護者の皆様にも伝えています。
日々のあいさつは人間関係をスタートさせます。あいさつには「今日も元気ですよ」「今日もよろしくお願いします」という気持ちが込められています。あいさつは、相手を認め、尊重することにつながります。相手の自尊心を高めます。相手の人がその人自身を尊重できるようになると、他者も尊重できるようになります。そして、お互いを認め合うことにつながると思っています。あいさつは、卒業後も求められることです。相手の人と一瞬でも心を通わせることを大切にしてほしいと考えています。
お手伝いは、自分の役割を意識し、それを果たすことによって、他者に認められる経験を積むことになります。相手に頼まれるということは、自分が信頼されているという受け止めにもなります。ちょっとしたことでも、相手のために手伝ってみようと思い、それができたときは自己肯定感にもつながります。そして、相手より感謝の気持ちがあらわされると、次もまたやってみようという意欲につながると考えます。

これからも繰り返し、あいさつやお手伝いについて子どもたち・保護者の皆様へ伝えることにより、「キャリア教育」で育成をめざす「基礎的・汎用的能力」の四つの能力（「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」）の向上を図っていきたいと思います。学校から家庭や地域へと子どもたちのあいさつやお手伝いの範囲が広がっていくことを願っています。
引き続き、鶴見養護学校の教育活動につきまして、ご理解・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

校長　林　正直